



ワオキツネザル エリマキキツネザル コモンマーモセット ワタボウシタマリン ノドジロオマキザル ボリビアリスザル ニホンザル マントヒビ ダイアナモンキー チンパンジー カニクイザル サバンナモンキー フサオマキザル アビシニアコロブス

特集
2

サルの干支展

今年は申年です。「雪の動物園」の開園に合わせて干支展を開催しました。サルに関するパネル展を、サルの担当をしている職員が力を合わせて準備しました。ここではそのうちの一部、大森山動物園のサルたちにスポットを当てて紹介します。



いたずら猿 大森山にやって来る

大森山動物園のサル山には現在84頭のニホンザルが暮らしており、そのルーツは京都にあります。

大森山動物園のサルの歴史

大森山動物園では、アビシニアコロブス、タイワンザル、アカゲザルなど、42年間で20種類以上のサルの飼育経験があります。自然界に生息するサルの種類が約180種に分類されていますが、相当数を飼育してきたこととなります。現在、疾病予防などの理由で、海外との動物交流の制限が大きい時代です。飼育サルの種保存の重要性がますます高まっています。

開園当時の飼育サル		20年前の飼育サル		現在の飼育サル	
種名	頭数	種名	頭数	種名	頭数
クロクモザル	2	ワオキツネザル	3	ワオキツネザル	26
ジェフロイクモザル	1	コモンマーモセット	7	エリマキキツネザル	3
カニクイザル	2	ノドジロオマキザル	6	コモンマーモセット	16
マントヒビ	1	フサオマキザル	2	ワタボウシタマリン	3
サバンナモンキー	2	ボリビアリスザル	10	ノドジロオマキザル	10
ダイアナモンキー	2	ジェフロイクモザル	4	ボリビアリスザル	5
シロテナガザル	3	ニホンザル	63	ニホンザル	84
アジルテナガザル	1	マントヒビ	3	マントヒビ	1
チンパンジー	2	サバンナモンキー	2	ダイアナモンキー	2
		ダイアナモンキー	2	チンパンジー	6
		チンパンジー	5		

飼育員に聞いた!!
おもしろ! 驚き!
エピソード

チンパンジー
風邪をひいているのりに小児用のパファリンシロップを与えていると、隣の部屋のゆみのすけが、甘いパファリンシロップを飲みたいがため、「ゲホッ、ゲホッ...!」と仮病を使ってアピールしていました。
※ゆみのすけは現在、釧路市動物園に購入し、パパになりました。

エリマキキツネザル
清掃しているときキレイになった場所にわざわざ行って糞をしたり、自分のいる場所に来るのを狙って糞をしてきます。

ワタボウシタマリン
自分たちの餌(特にバナナ)を下に落として、同居しているホシガメたちとシェアしています。(カメの餌にバナナはありませんが、カメはバナナが好き)。ワタボウシタマリンの餌に小松菜はありませんが、食べたいときはホシガメの餌からもらっています。

コモンマーモセット
ポケットに入るのが好きなコモンマーモセット。飼育員の作業着の上着のポケットが人気ですが、1頭入るといっぱい。でもどうしても入りたい後続組は無理やり入ろうと試みて、さらに入りたいう1頭がポケット入り口にやって来て。そこからはどこの家庭でもよくある兄弟ゲンカの始まりです。

ダイアナモンキー
展示場と寝室の間にあるキーパー通路の上から飼育員が下を通るのを狙って、オンソコを掛けてくることがあります。



その1
サル山づくりが計画され、展示するサルを探していた時、京都府の山間部にある宇治田原町で、畑を荒らすサルの捕獲計画が進められているという情報を得ました。そのサルを動物園に導入しようと、日本モンキーセンター指導の下、サル捕獲作戦を行うことになりました。



その2
捕獲作戦は、冬の餌がなくなる時期に山で餌付けが始まり、捕獲檻を作るための柱を少しずつ建て、時間をかけて囲いを作ってサルを馴らしていききました。



その3
数ヶ月後、サルたちは大きな檻の中で餌を探るようになっていました。捕獲用の檻は出入用の穴に落とし板が装置されていました。40頭くらいの群れが餌に夢中になり始めたころ、係員が落とし板をつり上げるロープを切断し、一瞬のうちに開けられていた穴を閉じました。



その4
こうして捕まえられたサルたちの中から、年齢や性別を見ながら選んだサル33頭が秋田に運ばれてきました。1981年の3月のことでした。

まめ知識 ニホンザルの 個体識別



個体識別は年に一度毎年行います。1頭1頭表情等が異なるので、顔や体の特徴を活かして個体識別できればいいのですが、数十頭もいると全ての個体を把握することが難しいため、道具を使って識別します。その日は飼育員総出でサル山に入り、全部のサルを部屋に追い込みます。サルも人も必死です。
大森山動物園ではかつてサルの顔と内股に入れ墨をして識別していましたが、入れ墨を入れる機械の調子が悪くなり、入れ墨が消えてしまうことが多くなったため、法律で定められた個体識別方法の一つであるマイクロチップに変えることにしました。

マイクロチップは一つとして同じ番号がないので、一度入れれば、その番号が一生そのサルの番号となります。チップは肩胛骨の間に太い注射針で埋め込み、針を抜いたら医療用の接着剤で穴を塞ぎます。埋め込んだマイクロチップは、読み取り機を使うと番号が表示され、それによって個体を識別することができます。
穴の塞ぎ方が不十分だとチップが落ちてしまったり、また、グルーミング(毛繕い)によって、最初に入れた位置からずれてしまうことがあり、番号を読み取るのもなかなか大変です。